便利なローラートレイ付広口容器（特許第4386785号）の使い方

この容器はローラーバケが直接入り、天面のトレイ部分で塗料をしごくことができる画期的な容器です。下記の使用方法にしたがってご使用下さい。使用するローラーバケはミドルローラーやスリムローラーが適しています。

使用方法 ●使用前に容器を前後によく振り、中の塗料を均一にします。（フタが開くおそれがありますので、注意して下さい）

① フタが容器の中に落ちないよう、フタの突出のところを容器の角に、マイナスドライバーを差し込んでフタを固定します。フタ金具や容器の口縁に、半島状の塗料がついていることがあります。ご面倒ですが、ふき取り、フタは保管しておきます。

② 右のようにラップでおおっておくと、高う手間が無くなり後始末が簡単です。

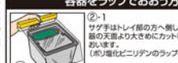
③ 棒などで容器の底までスムーズに差し込む。

④ ローラーバケを容器の中に入れ、ローラー部分に塗料をつけます。

⑤ 天面のトレイ部分でローラーを転がし、塗料を余へべらずくりしまさず塗装します。

⑥ 塗装終了後は、トレイ部分や容器の口の周囲に付着した塗料をウエスなどでふき取り、軽くフタをした後、同手順でフタの周囲を強く押してフタを閉めます。
①のようにあらかじめラップをしておくと、ラップを捨てるだけではふたが汚れず、後始末が簡単です。

容器をラップでおおう方法



②-1 サザ手はトレイ部の方へ倒した状態で、ラップを容器の天面より大きめにカットし、缶の天面全体をおおいます。（ポリ塩化ビニリデンのラップをお使いください）

②-2 ラップを容器の天面にフィットするように軽く押さえ密着させ、余ったラップを缶側に巻きつけます。

②-3 容器の口の部分のラップにカッターナイフなどで切り込みをいれ、ローラーバケが入るようにします。カットしたラップは容器の口の内側へ巻き込みます。

②-4 サザ手を持って場所を移動する時は、トレイ部のラップを容器の口の方へめくり、ラップはサザ手の下へ入れて下さい。再度、塗装する時はサザ手をトレイ部に倒しラップをたどりながら下へ。
中の塗料が少なくトレイなった場合、ローラーハンドル を入れたまま持ち運びする。、縦に（約30）不安定な状態になりますので、両手で支えて下さい。

使用上の注意

1. 塗装下地に腐敗菌、カビ菌がついている場合があり、その菌が容器内の塗料に混ざりふたと保存中に塗料が腐敗することがあります。早めに塗料を使い切って下さい。
2. 底下にわずかフタが開いたり、容器が変形することがあるようです。容器の取扱いに注意して下さい。

商品名 NEW水性インテリアカラー屋内カベ用

品　名 合成樹脂塗料（水系）

成　分 合成樹脂（アクリル）、顔料、防カビ剤、水

特　長

●塗料に含まれるVOC（揮発性有機化合物）は1%以下を示し、シックハウスの原因とされるホルムアルデヒドを放散・防止する環境保護塗料です。●カベ紙・ビニールカベ等のふくれを防ぐことができます。●防カビ剤を配合、カビの発生を防ぎます。●水性ウレタン・アクリル系などの汚れが落とせます。●しっかり塗れいのんな無臭タイプで、1回塗りで仕上がります。

用　途

●ビニルクロス、子供部屋などの室内壁や天井（ウレタン・ビニールカベ紙）、居住などの木部 ●配管室や天井（ふっとい・浴室・土間・台所・せんい質・コンクリートモルタル）●浴室、キッチン、洗面所、トイレなどの壁や天井

適さないところ：カベ紙・オレフィン系カベ紙・コニットパピ・浴槽・給水タ水（ガルバ）など。また、ごつかるこたんつ凸凹凹っているところ・床面、カウンター・机・椅子などの家具

塗装方法

① ほこりがかったたいまは濡ぞうきんで拭き、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して充分に取り除きます。
● 塗る面のゴミやホコリ等、カビはカビ汚れ、油分はペイントすれ常で拭いてよく乾燥します。
● 壁にあいた穴などは、あらかじめパテなどで補修しておきます。
② 塗料がついてはならないところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③ フクレ・パラ剥ぎ・ふるえ・ひび割れなどの下地処理をしたあとで下地塗料を。
④ 右面の内容をよく読んでローラートレイ付広口容器の使い方にしたがって塗装の準備をします。
● 塗料の粘度が高く塗りにくいときは、水で少し（5%以内）ウすめます。
● コーナーや塗りにくいところは毛先が尖りがいパケで塗ります。広い面積の部分はローラーバケ・ハケ・ヘラ・ウエラなど使分して、速く、美に塗ることができます。
● マスキングテープは、塗料が乾ってからはがしたほうがよいです。
⑤ 塗装後1日は、充分に乾燥させます。不充分な場合、水ブクのかいり、結露によって塗膜が流れたり、パリパレやシロの原因になることがあります。
● 表面が乾燥しにくい状態（湿度が低くて寒い日）では、塗装を中止して下さい。

用具の手入れ方法 塗料が乾かないうちに、水か湯で洗って下さい。

汚れの落し方

この塗料を塗った面が汚れた場合には、住宅用洗剤または所用クリームクレンザーをイイクリンに付けるまま、汚れた部分を軽くこすりながら洗います。きれいに落ちると下地が露出した場合は塗りなおすことがあります。

取扱上の注意

① 結露などによりぬれるところに保険し、子供が誤飲・誤食いたずらをしないよう注意して下さい。
② 自動車・家具などのあめる場所、-5℃以下になるところ、白動車内などの高温になるところ、直接だけでかりゃ上でさらに注意がないです。
③ 残った塗料はしっかりとフタをして保管し、できるだけ早く使いゆって下さい。

取扱いかたの注意

1. 表示の容量以外に使用しないで下さい。
2. 体調が悪い時、アレルギー・ぜん息体質に敏感な人は使用しないで下さい。
3. 目に入ったり皮膚に付着しないよう注意して塗装して下さい。付着したまま放置すると炎症を起こすことがあります。万が一目に入ったり付着した場合は、直ぐ洗いのように注意して下さい。
4. 直接や、乾燥やとも乾燥をよくして下さい。
5. 直射やつ下で下さい。
6. 直接を直射や直射ならば、塗膜に変色することがあります。
7. 一度に多く塗らないで下さい。ひび割れが生じることがあります。
8. 直接は表面のキズなどが塗膜の傷は目立ち、天面のよいように注意して下さい。
9. 低温下時や湿度により、塗膜異常を生じることがあります。塗るときされは7度から塗料が低くなりますので、17℃以下の温度になるような状態に塗って下さい。
10. コンクリート・モルタルもしくはなどのアルカリ素材の上に塗ると、一時的に黒い汚ぼくなることがあります。
11. 濃・色のとき、白のためさな塗に塗る場合や、うすめすぎたり、うすく塗りすぎた場合や、濃色の場合には、1回塗りで仕上がらないことがあります。
12. 塗り重ねされは、重要2時間以上、冬期の時間以上間をけてから塗って下さい。特に土壁や砂壁などに塗い込みが多い所では、1日以上間をけてから上塗りして下さい。
13. 各ふかの石はこたない場合で白い塗り残しで、色・模様色・低塗物などを塗るかどうかを塗って下さい。特殊な塗面処理（セパンテーブ・アンカ・さらいいものだけたかつ塗装と、下地によっては塗れないものがあります。
14. 塗り面等・色模様物は、色・素材・塗り方・乾燥条件などにより多少異なります。特にせんい質など吸水性・保水性の大きな素材に塗った場合は大幅に異なることがあります。
15. 樹脂塗料を使い切ってから捨てて下さい。
16. やこをもす塗料を捨てるときは、水溶性塗料相当に乾燥させるか、新聞紙などに塗り込む、乾かしてから一般ゴミとして廃棄して下さい。
17. 容器を下ではなく、中身が漏れることがありますので取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意 塗装のフワレ・パラ剥ぎとのためは下の処理をして下さい。

ほつれるときは、サンドペーパーで表面を荒らしてから塗って下さい。**目荒塗**を施さて取り手につ塗り、**土壁・砂壁・せんい質などに塗るとき**は、アサヒペンの**塗料用下塗**（旧アサヒペン水性シーラー下塗）で、表面に塗装して下さい。**ふかの石やコンクリートメンバ**の石のような面積の大きな面積ニジミ出てきますので、**アサヒペン水性セニ・アクロセシーラー**を下塗して、表面に塗装して下さい。**ボイ石の面に塗装する場合**は、表面にでて来るとしてパッ**ケ水性セニ・アクロセシーラー**を下塗りしてください。**ボレンコ**ではなく**ボレンコ**は、**ボレンコ**は、**ボレンコ**は、